

JTB中間期、経常益4割増に 分社化による費用削減など奏功

JTBグループの07年3月期の9月中間連結決算は、経常利益が前年同期比42.8%増の233億3400万円となった。売上高は0.2%増の6739億1500万円だが、分社化を機に取り組んだ戦略的な広告・宣伝策が寄与したのに加え、賞与支給方法の変更などで人件費・管理費を抑えられたことが寄与し、営業利益は72.8%増の209億8800万円と大幅に増加した。当期純利益は51.7%増の133億3200万円。

旅行事業の売上高は0.3%増・6069億4200万円。内訳は国内旅行が5.3%減・3163億8100万円、海外旅行が7.8%増・2734億2900万円、国際旅行が26.9%増・171億3200万円。今期から会計処理方法を変更しているため、従来の会計法で計算すると売上高は3.9%増、旅行事業売上高は4.5%増で、国内旅行売上高は0.7%増、海外旅行は9.8%増となる。海外旅行は法人需要が好調なうえ、M&Aの効果により、JTBグループの取扱人数は14.0%増の197万4595人と過去最高を記録した。日本人出国者推定値に対するシェアは22.4%となる見通し。

07年3月期の連結業績見込みは上方修正し、売上高1兆2940億円(当初計画は1兆2800億円)、経常利益260億円(同140億円)、当期純利益145億円(同70億円)とした。

現地ツアー販売サイト統一で拡販 トランスオービット、円決済で差別化

ツアーオペレーターのトランスオービットはこのほど、世界各国の現地ツアーや旅行素材を予約・販売するサイト「トラベルドンキー」(<http://www.traveldonkey.jp/>)を立ち上げた。これまでは同社が各国で展開していた現地法人単位でサイト運営を行ってきたが、各方面のサイトを統一することで利便性を向上させ、品揃えを強化し幅広いニーズを取り込む。現在ハワイ、オーストラリア、米国、韓国、タイなどを取り扱っているが、07年中にも他社オペレーターと提携し、全世界規模の取り扱いを目指す。05年度(05年4月～06年3月)の現地法人4社のネット売上高は約3億円だったが、07年度は4億5000万円を目指す。

トラベルドンキーでは、これまでの日本語オプショナルツアー、施設入場券・チケットに加え、現地発の英語ツアー、短期・長期宿泊ツアーなども販売。他社サイトでは現地通貨建てのクレジットカード決済が通例だが、同サイ

トでは円建てによるコンビニエンスストア決済、銀行振り込みも選択できるようにした。

ANA楽バック、発売1カ月で1億円超 売れ筋は沖縄・北海道

楽天ANAトラベルオンラインが展開する国内ダイナミックパッケージ「ANA楽バック」の売上高は、10月24日の販売開始から約1カ月間で1億3000万円となった。沖縄や北海道を中心に予約が伸び、1日当たり平均120件、多い日で最大200件の予約が入っている。同社では、「当初予測とほぼ同水準で推移している。オープン特需もあるが、今後、認知度の高まりとともに予約が伸びていく」と見ている。

ANA楽バックは、全日空の1日約900便の航空券と楽天トラベル、ANAセールスの宿泊施設を自由に組み合わせる仕組み。NHグループと楽天の折半出資会社である楽天ANAトラベルオンラインが楽天トラベルのサイト上で販売、今後2～3年で売上高200億円の達成を目指している。

海旅取扱額100億円達成に手応え ビッグホリデー、価格訴求型など浸透

ビッグホリデーは、04年度から進めてきた海外旅行事業倍増に向けた3カ年計画の最終年度に当たる今年度、上期(4～9月)の取扱額が前年同期比22.4%増の60億円で折り返し、ひとつのめどとしていた年間100億円達成に手応えを感じている。昨年度から投入した価格訴求型商品「超得」が市場に浸透したことや、欧州全体を底上げできたことなどが好調の要因。海外旅行の取り扱いを、04年度から安定した座席供給が見込めるアジアと欧州に絞り込んだことも奏功しているようだ。

ただ、3カ年計画の最終目標である取扱額140億円の達成は厳しい情勢。中国方面の積み上げが期待どおりでなく、各社との競争激化で、下期の販売が若干鈍っている。

HIS、年末年始の予約23%増 出発日の分散化傾向が顕著に

エイチ・アイ・エス(HIS)が発表した同社の年末年始(12月23日～07年1月8日)予約状況調査によると、11月20日の時点で同期間の申し込み人数が前年同日比23%増と好調に推移している。出発日のピークは12月29日、30日、1月1日、12月27日、1月2日の順で、出発日別の伸び率は1月1日が58%増、同2日が

旅行業システムの決定版

Tabby

タブビー

- 多大な初期投資が不要
- 月額10,000円より利用可能
- ASPなのでサーバーの設置が不要
- インターネットがあればすぐに稼働
- PHS・携帯でのモバイルでどこでも稼働
- 営業時間のデータ共有・ネットワークも簡単
- 5つのCRSとデータ連動
- 海外・国内対応、主催・手配・個札対応、旅行業の業種を選びません

既存システムの顧客データ無料変換キャンペーン中
ご希望であれば、体験版デモ用IDをお渡しします!!

株式会社 トラベルデータ

[URL] <http://www.traveldata.co.jp/>
[E-mail] muto@traveldata.co.jp
[TEL] 03-5489-8771 [FAX] 03-5489-8778

40%増、12月26日が67%増、同27日が37%増。年始発計も30%増となるなど、ピークを避けて出発する傾向も強く、出発日の分散化が顕著だという。予約時期については、例年ボーナス支給日前後の12月初旬にピークを迎えるが、今年も同時期に山場を迎える見通し。一方で早期予約の動きも出ており、年末年始商品を前年より1カ月前倒した販売戦略が奏功したと見ている。

方面別の傾向では、バリ島をはじめとしたアジアビーチが48%増となっているほか、エジプトも49%増と人気を集めている。短期間で行ける近距離方面が伸びる一方、ヨーロッパも前年と変わらず好調に推移しており、年始休暇と成人の日を絡めた長期休暇が定着してきているようだ。

京阪電鉄中間期、旅行業は減収 6.9%減の4億3700万円に

京阪電気鉄道の07年3月期の9月中間連結決算によると、旅行業(京阪交通社)の営業収益は4億3700万円で、前年同期比6.9%減となった。旅行業にホテル業、飲食業などを含めたレジャー・サービス部門の営業収益は10.4%増の159億4800万円、営業利益は3.7%増の7億1000万円だった。

旅行業の倒産、10月は3件 負債総額は5800万円に

帝国データバンクがまとめた10月の旅行業者の倒産(負債額1000万円以上)は3件で、負債総額は5800万円だった。前年同月から1件減少し、負債総額も8500万円減。ホテル・旅館経営業者の倒産は2件減の5件、負債総額は89億3600万円減の30億5400万円。